

リベリア大統領と アフリカの 未来を語る

横浜市で第4回アフリカ開発会議が開かれました



5月28日から30日までの3日間、横浜市で第4回アフリカ開発会議が開催されました。アフリカからは51カ国が参加、そのうち40カ国の首脳が来日しました。アフリカ以外の国々や国際機関、NGO等も合わせると実に3000名を超える日

本の外交史上類を見ない大規模な国際会議となりました。今回の会議では、深刻な問題を数多く抱える一方で、目覚ましい経済発展を見せつつあるアフリカの支援と開発について熱心で、活発な議論が行われました。

リベリアからは、エレン・ジョンソン＝サーリーフ大統領が来日しました。サーリーフ大統領は、アフリカで選挙によって選ばれた初めての女性大統領で、2006年1月に大統領に就任しました。リベリアは、長

(裏に続きます)



い間続いた内戦からの復興途上にある国で、現在着実に国家再建が進められています。かつては鉄鉱石やカカオの輸出が主な産業でしたが、現在は、ゴムの輸出が伸びています。2006年には、7.8%という高い経済成長率を記録しており、今後の経済発展が期待される国です。

おこのぎ八郎さんは、自民党の日本アフリカ連合（AU）議員連盟の副会長として2006年の夏、日本の国会議員団として初めてリベリアを訪問しました。その時就任して間もないサーリーフ大統領と会談しています。おこのぎさんが訪問した当時は、まだ内戦の影響が色濃く残っており、HIVの爆発的な感染拡大や経済復興など深刻な問題を数多く抱えていました。

今回の会談では、今後のリベリアの経済発展、開発への日本の関与が中心的な話題になりました。内戦によって日本とリベリアの関係は疎遠になり、民間企業等の活動も途絶えてしまいました。戦後復興から経済発展の兆しが見られるリベリアは、欧米等世界からも大変注目されています。リベリアは鉄鉱石やダイヤモンド、金といった鉱物資源が産出され、現在他のアフリカ諸国同様に中国企業の進出が近年目立ちます。今回の会談では、サーリーフ大統領から日本政府や企業に対して、是非リベリアへの関与を深めて欲しいとの強い要請がありました。おこのぎ八郎さんも、単に経済の問題だけでなく、リベリアや他のアフリカ諸国が抱える深刻な問題を解決し、アフリカ全体が大きく発展できるように日本として是非協力したいと述べました。

おこのぎ八郎さんを支援する会

横浜市神奈川区反町1 - 7 - 1

TEL: 045 (323) 6000

FAX: 045 (323) 2974